

久し振りに大阪へ出張した。空港に劣らず新幹線にも外人客が多い。気温は二十度くらいだが、皆真夏並みのショートパンツにノースリーブシャツ姿である。大きなリュックを背負い、中にはトランクを二つも持っているのがある。

- 富士みゆとアナウンスあれどひたすらにスマホに向かう異国の旅人
隣の席に座った中年の外国人女性は、座った途端からスマホを取り出し、読んだり入力したりしていた。折角旅に出たのに、景色も見ないとはもったいない事だ。

- 実りたるいなほ広がる車窓には薄雲通し陽は射し来り
黄金色の稲穂が広々と田園いっばいに広がっている景色は実に心休まるものである。
いまウクライナでは小麦の刈り入れ時であるに違いない。黄金色の小麦は戦火の元で無事刈入れされているのだろうか。

- のぞみには P C 広げ仕事する忙しき人のなんと多きか
のぞみは今や動くオフィスといった感じた。私の乗った車両だけが観光客が少なかったのかもしれないが、移動時間にも仕事をしなければならぬ現代人は大変だ。寝台列車で四日市や八幡へ通った昔はビールを飲み、つまみを齧りながら旅をしたものだ。

- ひかりからのぞみに乗り継ぐ我が旅は由なきままに時流れゆく
居眠りをして乗り過ぎてはいけなさと緊張して座っているが、最近眼が悪くなり本を読むことも出来ない。車窓の風景は余りにも早く過ぎて行きながめる楽しみが薄れている。

- 飽きもせず過ぎ行く景色を眺めしは黒煙臭う客車の窓より
子供の頃汽車に乗ると窓から外を眺めるのがこの上なく楽しかった。機関車が吐き出す蒸気が畦道へ低くなびいて次第に消えて行く。遠くの森や山が次第に形を変え見えなくなつてゆく。

- 緑色の髪の女は独り旅黒き衣を纏いて座る
途中から乗ってきた女が通路を隔てた席に座った。なんと髪の毛が緑色である。上下黒の衣装をまと
い緑色の髪を持つ人はなんとなく人間離れしている。魔女なのだろうか。